

庄内総合高校 学校評価書

令和4年度 山形県立庄内総合高等学校

教育目標	心豊かに、たくましく生き抜く社会人の育成をめざし、知性と情操、自立と連帯、気力と体力を培う
スクール・モットー	『磨こう個性を 拓こう未来を』
目指す生徒像	(1)多様性を尊重し、人との関わりを大切にす生徒 (2)自己を理解し、自ら進む道を切り拓く生徒 (3)高い志を持ち、よりよい社会の創造に貢献できる生徒
経営方針	スクール・モットー『磨こう個性を 拓こう未来を』の下、地域社会と連携しながら公益性の高い愛される学校づくりを推進する。 (1)キャリア教育の充実と総合学科の特色を活かした魅力ある学校 (2)生徒の多様な進路を実現する学校 (3)人とのかかわりの中で、思いやりの心を大切にす学校 (4)社会に開かれ、地域と連携し、地域に貢献する学校

＜評価の基準＞  
A:達成度 80%以上  
B:達成度 60%以上  
C:達成度 40%以上  
D:達成度 40%未満

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価 中間年間		
1 授業の充実による確かな学力の育成	① UDの視点での授業改善による学習意欲の喚起と学力向上  ② ICTを効果的に活用した教育活動の推進  ③ 観点別評価等の評価方法の研究と実践  ④ 図書館の積極的な活用と読書活動の推進	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>UDをテーマとした研究授業週間を設け、UDの推進に努める。</li> <li>生徒1人1台パソコンを活用した学習方法についての研究・研修をすすめる。</li> <li>観点別評価についての情報交換の場を設け、よりよい評価方法について研究を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業旬間を設定し、教員相互が授業参観して交流することができた。</li> <li>まずは、個々に活用を実践して頂いている。共有化については次年度持越し。</li> <li>評価方法の考え方を成績会議で提示して、各教科への検討を促している。</li> </ul>	D C B	B C B	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科の特徴を生かしながら、庄内総合高校らしい特徴ある学びを実践できている。</li> </ul>
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎力診断テストを継続して実施し、自己分析を通して進路選択・希望実現につなげる。</li> <li>進路講話を通して、基礎学力の大切さを訴えかける。</li> <li>進路閲覧室の配置を工夫し生徒が活用しやすい環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラス・年次で進路面談等で参考資料として活用している。</li> <li>進路講話、集会時など、訴えかけている。</li> <li>資料を探しやすく、生徒が足を運びやすい環境となった。</li> </ul>	B B B	B B A	
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のルールや集団生活に必要なマナーを重んじる態度を育てる。</li> <li>学校が安心できる学びの場となるよう、お互いを気遣うことができる心を育てる。</li> <li>服装頭髪指導や言葉遣いなどの指導を通して、「凡事徹底」の確立を目指す。</li> <li>カウンセリング体制の充実を図り、必要とする生徒・保護者へ積極的に周知していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の施設・設備の破損、悪戯等が見られたものの、その都度生徒達に注意喚起を行ったことにより、減少傾向にある。</li> <li>各年次・他分掌の協力を得て生徒達への働きかけを行っており、特に大きな問題は見られなかった。</li> <li>今年度より私服の着用が認められたが、「授業を受けるのにふさわしい服装」を心がけるように生徒達に呼びかけてきたことにより、大きな混乱は見られなかった。</li> <li>カウンセリングの利用により、今後の指導の方向性を見出すことができた。今後は生徒・保護者がよりカウンセリングを利用しやすい環境づくりに努めたい。</li> </ul>	B B B B	B B C B	
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の積極的な活用推進のために、生徒も職員も活用しやすい雰囲気作りや図書環境の整備に努める。</li> <li>図書館利用を積極的に呼びかけ、授業やキャリア学習等で活用しやすい環境を整える。</li> <li>読書活動推進のため、日頃から文字に親ませ読書を促しながら読書活動に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入室しやすい雰囲気作りに努め館内の書籍配置等も工夫をこらした。入室者は増加している</li> <li>授業等での図書館活用が徐々に増えた。購入希望の図書や資料の要望に応えた。貸出冊数(一人当たり):R4 3.2冊、R5 5.3冊</li> <li>国語科の協力により感想文に積極的に取り組み提出率も高い結果となった。</li> </ul>	A A A	A A A	
		I部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習する習慣づけを行う。(自学ノートの取り組み)</li> <li>スケジュール帳を活用し、見通しを持って行動する力をつける。</li> <li>生徒一人ひとりの学力に応じた個別指導、講習を行う。</li> <li>タブレット等を授業や家庭学習で活かせるようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年度末によく提出率と学習内容の質が向上している生徒が多い。来年度も継続していく。</li> <li>活用している生徒は少数のようだ。来年度も継続するか検討中。</li> <li>テスト前無言学習会を2回実施。夏休みは2年次と合同で学習会を行った。自学ノート(マイスタディ)で一人ひとりの学習の特徴を捉えることができた。</li> <li>タブレットは使い慣れている生徒が多い。充電忘れ、タブレット忘れが必ずいるので来年度は改善したい。</li> </ol>	A B A B	A B A B	
		I部 2年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>日々の授業にスケジュール手帳を携行させ、授業内の指示や連絡のメモを取る習慣作り。</li> <li>学習習慣を整えるための整理整頓の啓蒙</li> <li>具体的な目標設定をさせ、個々にスケジュール管理を行わせ、計画的な学習に努めさせる</li> <li>物を大事にする心を養う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スケジュール帳を利用する生徒が増えてきたことは評価できる。次年度も継続したい。</li> <li>整理整頓の難しい生徒は個別指導を継続する。</li> <li>欠席の多い生徒中心に計画的な学習に至っていない。</li> <li>清掃指導の強化により、身につき始めている。</li> </ol>	B B A B	B B C B	
		I部 3年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>日々の授業にスケジュール手帳を携行させ、授業内の指示や連絡のメモを取る習慣作り。</li> <li>自分の机 後ろのロッカー 廊下のロッカーの整理整頓</li> <li>図書委員会と連携して、教室に新聞を設置し、読むことについて推奨する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>指示がなくてもメモを持参する習慣が身についた生徒が増えた。</li> <li>メモや整理整頓は個人差はあるが、環境整備はおおむね良好。</li> <li>進路活動に役立てようと、利用している生徒が一部いた。</li> </ol>	A B B	A B B	
		II部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>週ごとの活動計画の可視化提供と並行して、手帳の活用による自律的な生活習慣作りをすすめる。</li> <li>Google Classroomの活用により、多様な生徒の学習活動に対応していく。</li> <li>定時制キャリア総合における生徒の達成感・自己肯定感の涵養につながる評価法の構築を目指す。</li> <li>ライブゼミやキャリア総合などでの図書館利用を進めていく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>手帳よりClassroomでの情報確認が主となっている。生徒の自律的な自己管理は継続的な課題である。</li> <li>Classroomによる教員からの連絡は積極的に進めることはできた。</li> <li>評価に関する共通認識の基盤を少しずつ構築することができた。</li> <li>図書館の利用に関しては、定時制生徒にハードルは高い。教科での利用は少しずつ進んだ。</li> </ol>		B B B B	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況			
				評価 中間年間			
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 地域と連携した探究型学習の推進  ② 自己実現を図るためのふるさとキャリア教育の充実  ③ 個々の志望に応じたきめ細かな指導体制の構築と実効的運用	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人材や施設を利用した授業展開を推進する。</li> <li>科目選択のための資料の整備や、生徒の希望把握のためのツールのマニュアル化を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科、理科、地歴科など各教科にて、実践されている。</li> <li>令和4年度入学者教育課程に準じて、資料や希望集約ツールを整備し、個々の希望変更に対しても、常に全体把握ができるようにした。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民としても庄内総合高校の活躍に大きな期待を持っている。今後とも、地域連携を更に進めてお互いに良好な関係を保ちたい。</li> </ul>
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の仕事観・職業観を育成する書籍をHRに配置する。</li> <li>生徒の進路希望等の情報を全職員で共有し、生徒一人一人に対する進路指導を全員態勢で行う。</li> <li>地元企業との交流会及び事前学習を通して職業意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が手に取りやすい書籍をHRに配置した。さらに随時進学就職の情報を得るための雑誌を追加した。</li> <li>進路情報をグループウェアや成績会議を通して共有した。</li> <li>庄内町企業ガイダンスを通して職業意識を高めた。2月に地元企業との交流会を予定している。</li> </ul>	B	A	
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動や委員会活動、部活動などを通して生徒の自主性を育む活動を展開する。</li> <li>生徒の積極性を引き出し、地域との関わりなどについて自ら行動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により、依然として様々な制約が残るものの、生徒達は意欲的に活動することができた。</li> <li>昨年度と比較すると、地域と関わる機会が少しずつ増えており、これらの機会を通して生徒達は素晴らしい体験をすることができた。</li> </ul>	A	A	
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>式典での礼法指導を体感させることで、挨拶習慣やマナーを身につけさせる。</li> <li>同窓会との繋がりを通して地域を愛する気持ちや母校に対する誇りを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊張感を持って式典での振る舞いに努めることができた。</li> <li>式典という節目で同窓会や地域との繋がりを考える事を継続させていきたい。</li> </ul>	B	A	
		I部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>保護者、生徒参加型の進路研修会を行う。</li> <li>キャリアパスポートを活用し、学校と家庭で連携して生徒を育てていく。</li> <li>キャリア学習を通して、自分の将来像を具体的に定められるように助言していく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3月26日に保護者向けの進路研修会を行う予定。親子での開催は難しいため、それぞれが同じ内容の話をきく形にする。</li> <li>キャリアパスポートを活用できた。年度末の反省を行い、来年度にいかしたい。</li> <li>講話やインターンシップでの体験を通して進路学習を行った。振り返りにも力を入れた。来年度は一人ひとりの進路目標が具体的にできるよう指導したい。</li> </ol>	D	C	
		I部 2年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路課主催の事業等を通し、進路目標の具現化</li> <li>キャリア総合の学習を通し、「傾聴力」「表現力」「言語力」を養う。</li> <li>生徒の進路志望に応じた情報提供と教員間で進路の課題を共有し、同一した個別指導。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス等の実施を通し、個々に目標を定め始めている。</li> <li>自己の考えを言語化して「書く」「話す」指導を継続していく。</li> <li>キャリア学習を通し、進路別のグループ化をし職員が個々に指導に当たっている。</li> </ol>	B	B	
		I部 3年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>面談を通して、進学、就職ともにミスマッチを防ぎ進路希望を実現させる。</li> <li>進路課と連携を密にし、情報を共有し、生徒に提供する。</li> <li>個性豊かな卒業研究の工夫、発表ができるように準備する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>年内に全員進路決定することはできなかった。残り数名最後まであきらめない。</li> <li>進路課とうまく連携を取りながら、進路指導ができた。</li> <li>総合学科発表会史上、最高の内容だった。生徒の頑張りを誇りに思う。</li> </ol>	A	A	
		II部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の協力による事業実践を通して、郷土や地元の良さを感じさせる学びを進める。</li> <li>地元の職業人インタビューなどの活動を通して、キャリア理解と自己実現の基礎作りをする。</li> <li>少人数クラスであることのメリットを生かし、丁寧な面談による個々の生徒理解を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1日研修や海岸清掃などを通して、郷土の良さを実感する場面を創出できた。</li> <li>職場訪問インタビューに参加できない生徒はいたが、その後の発表会を通して進路意識の高揚が感じられる。</li> <li>個々の生徒の状況について、職員間でこまめな情報共有ができた。</li> </ol>		A	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価 中間年間		
3 心身の健康と安心・安全教育の充実	①「いのちの教育」をとおした思いやりの心や自己肯定感の育成  ②豊かな人間関係の構築と「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底  ③自主的・自律的な特別活動等の推進  ④特別支援教育の充実とソーシャルスキルの育成	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身に付けられるように、特に新入生についてはガイダンスを行う。</li> <li>生徒の学力の把握と学び直しに向けた学習方法の研究を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の段階で、学校のしくみや生活習慣確立のガイダンスを行った。</li> <li>基礎力診断テストの分析を行い、客観データから現状を把握した。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内に入ると多くの生徒から挨拶を受ける。このような良い習慣は今後ともなくならないように継続して指導して欲しい。</li> </ul>
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路体験学習を通して挨拶やマナー、礼儀の必要性や意義を理解し習得する。</li> <li>多様な生徒の進路選択に柔軟に対応するために外部団体との連携を密にする。</li> <li>面接指導を通して生徒の長所を引き出し自己肯定感を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業ガイダンスなど、直接企業の方と接する中で礼儀やマナーを意識させることができた。</li> <li>庄内町との連携やハローワーク・鶴岡養護学校との連携を通して多様な生徒に柔軟に対応できる体制を作っている。</li> <li>職員による進学・就職指導を行い、生徒の内定や合格につながった。</li> </ul>	A	A	
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な行事、活動を通じて、生徒会・各種委員会・HR活動の充実、活性化を図る。</li> <li>自他の生命を尊重する心を育て、「いじめを絶対に許さない」環境づくりを行う。</li> <li>安全や健康に対する自己管理能力を高め、健全な学校生活の実現を目指す。</li> <li>年次団との連携やSC面談を通して、心身の健康に課題を持つ生徒の支援を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部を中心として、それぞれの行事・活動において精力的に活動することができた。</li> <li>いじめ調査アンケートやスクールサインの有効活用に加え、各年次の協力を得ることにより、適切に対応することができた。</li> <li>感染症対策として、生徒達に必要な情報提供、注意喚起を実施することにより、生徒達の自己管理能力を高めるとができた。</li> <li>各年次との連携を深め、面談を適切に実施したことにより、一定の成果を上げることができた。</li> </ul>	A	A	
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域とのつながりや同窓会に感謝し、自分につながるいのちを大事にする意識を育成する。</li> <li>日頃から防災への意識を高め、自分自身だけでなく他人や地域も大事にする意識を持たせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「100年近い歴史がある学校」を身近に感じ同窓会とのつながりを大事に感じることができた。</li> <li>防災について深く考える事ができた。今後は緊急時に備える機会を年間2回(学期毎)にし更に防災意識を高めていく。</li> </ul>	B	B	
		I部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>物事を考えて行動できる生徒を育てる。(生徒自ら動くシステム作り)</li> <li>生徒の変化に気づき、必要な時にすぐ面談を行う。</li> <li>お互いの個性を認め、受け入れられる生徒を育てる。</li> <li>支援が必要な生徒を年次、教科担任、家庭と連携をして計画的に支援していく。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>時間前行動が身についてきた。</li> <li>変化に気づき、その都度面談を行うことができた。担任が抱え込まないように年次全体で協力してきた。</li> <li>良好な人間関係を作るためのグループワークなどを行っていききたい。</li> <li>個々の生徒の状況を見極めながら、2学期期末テストの学習会などを今後とも行っていききたい。</li> </ol>	B	A	
		I部 2年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>相手や周囲の気持ちを考えた言動と行動を、常に心掛けさせる。</li> <li>「考える」「心を整える」「行動する」を年次スローガンとし、自分の行動に責任を持たせる。</li> <li>行事を通し人間関係の構築を図り、リーダーとなる生徒の育成</li> <li>特別支援については教員間の共通理解のもと、一斉指示・指導の後の個別支援の徹底</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>個人差はあるが、精神的に成長が見られる。</li> <li>苦しい状況下での自分の進むべきベクトルを考える指導の継続</li> <li>リーダーとなっている生徒は、それぞれの仕事を通し、「人」として成長している。</li> <li>キャリアカウンセリング、就労支援など外部との連携を今後も強化していく。</li> </ol>	C	B	
		I部 3年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>職員室等の入室の仕方を指導する。</li> <li>相手の立場になって物事を考え行動できるように育てる。</li> <li>行事等を通し、人間関係の構築を図り、縦横のつながりを意識し、最高年次としてのリーダー育成</li> <li>ココトレ教育の創意工夫。ココトレボーイズの成長。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>丁寧に入退出の挨拶ができるようになった。</li> <li>大人になったと感じる生徒が増えた。</li> <li>キャリアやLHR等を通して、多様な視点を持って物事を考えることができるようにアドバイスができた。</li> <li>多くの先生から、かかわりを持ってもらいながら、成長を見守っている。</li> </ol>	A	A	
		II部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>自己効力感を得ることで次のステップに挑戦したいと感じられるよう各種活動の工夫に努める。</li> <li>少人数の活動から徐々に多くの人とのかかわりに進むよう配慮し、他者と協働する力の育成に努める。</li> <li>生徒による自発的なかかわりの中でHR活動が進むようサポートをしていく。</li> <li>生徒・クラスの状態を教員集団の中で共有し、個々の生徒の発達段階に応じたソーシャルスキルの育成を図る</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ライフゼミ」「産人」「生活体験発表会」など各種取り組みを通して成長を促すことができています。</li> <li>学校祭での全日の生徒との交流により、クラス内だけではなく関わりもできるようになってきた。</li> <li>HR活動では、個々の生徒がかかわりをもって活動できている。</li> <li>年間を通して、社会性を高めることができた。</li> </ol>		A	

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 自己評価に対する評価			
				取組と達成状況					
				評価 中間年間					
4 地域連携と魅力ある開かれた学校づくり	① 家庭や地域との連携・協働による教育活動の推進  ② 生徒の主体性を活かした特色ある学校づくりの推進とボランティア活動の充実  ③ 新高校のスムーズな立ち上げと全日制・定時制における連携と独自性の確立  ④ 広報活動の充実と学校ホームページ等の活用による積極的な情報発信	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい教育課程に即した選択のしよみの確立と系統的学習の推進</li> <li>ホームページを活用した学校生活、学習の紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の説明、系列選択シートやマークシートの作成・運用を実施。学習の系統化については、各教科へ依頼。、</li> <li>各授業での活動や、部活動、行事の実施に際して発信している。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄内総合高校は地域と非常に深いつながりがある、今後とも良好な関係が継続していくことを期待している。</li> <li>鶴岡や酒田から通ってきている生徒が多くなっているが、そのような生徒にとって高校時代に庄内町の学校に通って良かったと言ってもらえるような関係を作っていきたいものである。</li> </ul>		
		進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA進路部会による模擬面接を実施する。</li> <li>地元企業と連携した職業体験や学校・企業見学会を企画し職業意識を高める。</li> <li>HPを利用し地元企業と連携した取り組みを発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回の実施を予定していたがコロナウイルス感染拡大の影響で2回目は中止とした。</li> <li>庄内進学就職見学ツアーやWAKUWAKUワークを行った。また、庄内町企業ガイダンスに1・2年次が参加した。2月に地元企業の交流会を予定している。</li> <li>交流会の様子をその都度HPで発信している。また、庄内町との連携事業は町の広報でも発信されている。</li> </ul>	B	B			
		生徒保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ボランティア活動や地域行事などへの参加を積極的にに行い、地域の一員としての態度を育てる。</li> <li>地域へ学校をPRするための広報活動を積極的に行う。</li> <li>全日制・定時制両課程において、それぞれの持つ独自性を尊重しつつ、生徒指導が効果的に実践できるように連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比較するとボランティア活動に参加する機会にも恵まれ、生徒達は意欲的に活動し、かつ貴重な体験をすることができた。</li> <li>ハーバーラジオにおいて、本校生徒の活動について紹介し、学校をPRすることができた。</li> <li>日常より意思疎通を欠かさずに行っており、1つのチームとして生徒指導に取り組むことができた。</li> </ul>	A	A			
		総務図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が学校活動に興味関心を持って参加できるように、PTA専門部活動と連携しながら活動紹介する。</li> <li>PTAや同窓会の広報誌をホームページに載せる等、様々な年代へ向けての情報発信をする。</li> <li>緊急時や行事連絡等の情報発信網を活用し、PTA関係連絡が効果的に活用できるように管理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次や各課の協力を得て、3つの部会を中心に活動できている。</li> <li>各担当の協力で随時ホームページに記載した。</li> <li>さくら連絡網が順調に活用されている。今後も更に活用していきたい。</li> </ul>	B	B			
		I部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域を知り、貢献できる活動を行う。</li> <li>定時制生徒と交流できる活動を増やす。</li> <li>ホームページで生徒の頑張りを発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域に貢献する活動はできなかった。</li> <li>キャリアの発表や講話等と共にを行った。交流まではいたっていない。</li> <li>頻繁に発信することはできなかった。</li> </ol>	C	C			
		I部 2年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>年次だよりやHPの活用を通し、学校生活の様子を発信する。</li> <li>年次PTAや三者面談を通し、保護者との連携を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>さくらメールを利用し、年次だより、学校生活の報告などを行ってきた。</li> <li>年次PTAは、年度末に実施の方向で検討中。</li> </ol>	A	B			
		I部 3年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>年次だよりやHPの活用を通し、学校生活の様子を発信する。</li> <li>年次PTAや三者面談を通し、保護者との連携を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>広報委員を活用して年次便りを作成している。HPにアップしている。</li> <li>三者面談は計画通り進めることができ、必要に応じて複数回の面談を実施。大きな問題もなく受験先を決定することができた。</li> </ol> <p>年次PTAは計画できなかった。</p>	A	A			
		II部 1年次	<ol style="list-style-type: none"> <li>事業所での活動(2年次)に協力をお願いできる企業等の掘り起こしをすすめる。</li> <li>全日制とのかかわりの中で、定時制の生徒らしい活動計画の立案と実施を行う。</li> <li>全日制と密に連携を図りつつ、県内初の定時制総合学科としての学びの設計を進める</li> <li>保護者に対する情報提供、外部に対する広報についてWEBを活用し展開する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2年次の就業体験の受け入れ先の確保とまでは至っていない。継続課題である。</li> <li>3 全日制の協力により、定時制生徒にとっては非常に多くの学びや気づきの場が得られている。こころより感謝したい。</li> <li>4 月ごとの年次だよりは継続して発行できた。Web活用については課題がある。</li> </ol>		B			
								A	A
									B

重点項目	重点取組	分掌	具体的方策	自己評価		学校関係者評価 自己評価に対する評価	
				取組と達成状況	評価 中間年間		
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実		I部 キャリア1	<p>1 身につけたい力を明示した授業改善 ⇒身につけたい力を明示した授業改善に力を入れ、生徒が目標達成に向け何をすべきか主体的に考えられる学習環境をつくり、生徒の自己理解力と将来設計力を高める。</p> <p>2 キャリアパスポートの有効活用 ⇒中学校までのキャリアパスポートと高校でのキャリアパスポートを一冊のファイルに収納し、生徒がこれまでの自分の成長や学びの系統性振り返ることができるようにする。キャリアパスポートをもとに生徒と担任・年次団・保護者で対話し、生徒の新しい気付きや学びの深まりを促し、自己実現につなげられるようにする。</p> <p>3 これからの社会の変化を意識した進路選択をする力の育成 ⇒インターンシップを含めた様々な体験活動・学習活動を通して、これからの社会の変化や求められる力を学ぶことができるようにし、進路選択につなげさせる。</p>	<p>1 生徒に「身につけたい力」をつけさせるために、目標準拠評価のあり方やなぜそのような評価になったのかを生徒に詳しく説明することで、学習の成果を生徒にしっかりフィードバックできた。その結果、「身につけたい力」に沿った学びや記述をする力を高めることができた。</p> <p>2 キャリアパスポートを通して、生徒・保護者・教員のつながりを深めることができた。行事等においてそれぞれの役割や仕事量に差がある状況で取り組むため、個々の頑張りを見取りづらい点が今後の課題である。</p> <p>3 インターンシップ関連学習を通して、新たな自分の可能性に気づく事ができた生徒や、自分の課題を理解し改善しようとしている姿も見られ、成果を感じている。働くことについての意識を高めることができた。</p>	A	A	<p>・1月の総合学科発表会は大変素晴らしいだった。特に、地域を学ぶでの地域の偉人を基にした朗読劇は、内容も素晴らしく演じた生徒達にとっても一生忘れないものになるだろう。新たな学びの可能性を感じた。また、3年生のプレゼンテーションは素直な思いがしっかり伝わる内容で、指導された先生方のご苦労が良く分かる素晴らしいものであった。</p>
		I部 キャリア2	<p>1. キャリア総合1の学習をさらに深め、様々な活動を通して、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、自分を表現する力を養う。</p> <p>2. 自ら様々な情報を入手・分析し、多様な可能性の中から進路を自己決定する力を養う。</p> <p>3. 様々な活動や修学旅行等の学校行事とおして、豊かな人間性・社会性を育みながら自己の未開発な面を発見する力を養う。</p>	<p>1 活動を通し、互いに役割分担しながら活動することができた。</p> <p>2 進路ガイダンスや職業調べを通し、志望理由を考えさせた。</p> <p>3 キャリア活動や修学旅行などの行事を通し、個々の特性や特徴を認め合える雰囲気が出てきた。</p>	B	B	
		I部 キャリア3	<p>1. 様々な学習活動を通して個々が確固とした勤労観・職業観を持ち、自らの責任で自分の生き方を選択・決定する能力を培う。</p> <p>2. 多様な情報の中から必要とされる進路情報を選択・活用し、自らの進路実現に向け学習を深める。</p> <p>3. 日常生活の振り返りから社会人となる上で必要な態度、能力を培う。</p> <p>4. 研究活動を通してこれからの将来に続く自己の生き方・あり方を探求する。</p> <p>5. 研究活動を通して自ら学び、考え、行動する力を培う。</p> <p>6. 研究の成果をまとめ発表することで知識・発表技術の総合化を図る。</p>	<p>12 3年間のキャリア学習を通して、自己の生き方や在り方から進路選択・決定に活かすことができた。</p> <p>3 進路決定後も生活態度で大きな崩れはなかったが、一部に自分たちが決めた学校のルールにそぐわないものがいたことは残念である。</p> <p>4 自ら研究テーマを設定し、研究活動を行うことはできたが、自己のこれからの生き方・あり方につなげて考えるところまでは至っていない研究の方が多かった。</p> <p>5 自分の母校(小学校、中学校)や企業、施設、庁舎等外部に赴いて情報を収集したり、独自の実験や制作活動を通して課題解決に取り組むなど、研究活動を通して学び、考え、行動する力を培うことができた。</p> <p>6 グループ内での発表を2回、年次の発表会、総合学科発表会と発表の回数を設け、研究成果のまとめ方や発表の仕方等についてより伝わるための表現の仕方を追求することで、アウトプット力を高めることができた。</p>	A	A	
		II部 キャリア1	<p>1. 職業人インタビューの実践などを通して、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力、自分を表現する力を養う。</p> <p>2. クラスメイトや全日制生徒との交流など様々な活動とおして、豊かな人間性・社会性を育みながら自己の未開発な面を発見する力を養う。</p>	<p>1 職場訪問インタビューに参加できない生徒が出たことは大きな課題である。</p> <p>2 年間を通して、他者との交流に少しずつ挑戦できるようになってきたことは評価できる。</p>	B	A	